

讃美歌21 153

- 1 幸いな人, またき道と
みことば守り, さがす人は。
神 共にいまし, 常にかかわらず,
恵み受くる。
- 2 正しき裁き, われは学び,
心を尽くし, 主に感謝す。
主のおきて守る われを見捨てず,
恵みたまえ。
- 3 わが心 主の教えられし
みことば守り, 道を歩む。
道を示す主に, われはしたがう,
迷いなしに。
- 4 絶えることなき 主のみことば。
尽きることなき 主の真実。
主の手が支える 天と地のように,
とわにつづく。

EG295 T. Cornelius Becker M: Heinlich Schütz

- 1 Wohl denen, die da wandeln vor Gott in Heiligkeit, nach seinem Worte handeln und leben allezeit; die recht von Herzen suchen Gott und seine Zeugnis' halten, sind stets bei ihm in Gnad.
- 2 Von Herzensgrund ich spreche: dir sei Dank allezeit, weil du mich lehrst die Rechte deiner Gerechtigkeit. Die Gnad auch ferner mir gewähr; ich will dein Rechte halten, verlass mich nimmermehr.
- 3 Mein Herz hängt treu und feste an dem, was dein Wort lehrt. Herr, tu bei mir das Beste, sonst ich zuschanden werd. Wenn du mich leitest, treuer Gott, so kann ich richtig laufen den Weg deiner Gebot.
- 4 Dein Wort, Herr, nicht vergehet, es bleibet ewiglich, so weit der Himmel gehet, der stets beweget sich; dein Wahrheit bleibt zu aller Zeit gleichwie der Grund der Erden, durch deine Hand bereit'.

Quelle: Psalm 119

「新しいことが起こる」 イザヤ 43:16、18－19、65:16－17

「…先のことに心を留めるな。昔のことに心を留めるな。見よ、私は新しいことを行う。今、それが芽生えている。…私が荒れ野に水を、荒れ地に川を流れさせ、私の民、私の選んだものに飲ませるからだ。」(43:16－19)

「この地で祝福される者は、まことの神によって祝福され、この地で誓う者は、誠の神によって誓う。かつての苦難は忘れられ、私の目から隠されるからだ。見よ、私は新しい天と地とを創造する。」(65:16－17)

この詩篇を読むと、「ペシャワール会」の現地代表で、昨年11月に暗殺された中村 哲医師のことを、思い出します。タリバンが勢力を拡大して荒廃した地域で、農業と地域を再生させるための水路建設を、アフガニスタンの人々と20年以上にわたって進めてきた方です。

これに加え、私と母教会が同じで、「ケアリング・フォー・ザ・フューチャー」(CFF)財団を創設し、フィリピン及びマレーシアで孤児院を建設し、そこに、日本で生きる道を見つけれない若者に、生きる勇気を与えた二子石 章さんや、これを支えた二俣恵二郎さんを思います。

世界が解決を必要としていることに、私たちは、本当に真剣に取り組んでいるのでしょうか。

学生の皆さんが、大学を卒業し、就職し、組織のなかで、学ぶことは、たくさんあります。実際、組織に属していないと、できないことが、たくさんあります。

しかし、多くの組織は、残念ながら前例を踏襲したがります。また組織を守る人を大事にします。組織には、次第に風通しの悪いヒエラルヒー（階層構造）が出来上がります。

それでも、それらの事業が、創始された時には、大事な目的と、こころざしを共有する運動であったことを、忘れないでいただきたいのです。

初代キリスト教会も、こうした意味では、運動体でした。イエス様は、戒律が呪縛となった宗教からの人々の解放を語っておられました。

16世紀に起こった宗教改革も、教会組織を分裂させることが目的ではなかったはずですが、それは初代教会への回帰であり、原点は、運動体としての教会だったと思います。

ところが、キリスト教の組織や教義を守り、自分を維持することだけが、教会の目的になっていくことは、何をもたらすのでしょうか。それは、「初めの愛」(ヨハネの黙示録2:4)から離れていくことに他ならないでしょう。

新型コロナウイルスによる「パンデミック(世界的な感染)」のなかにいる私たちは、いまこそ、自分が、人生において何をすべきかかということを、考える好機なのです。

まず、毎日が大事です。生きることは、日々の決断であることを、忘れないようにしましょう。生きることを問い直すことなしには、私たちは、生きることができないのです。

安易に、古いものより、新しいものが全て優れていると考えるのは誤解です。成長して強力になることが、いいことだというのも誤解です。

聖書では、古いものとは、過ぎ去るものをいうのです。

それでは、新しいものは、どこから生まれるのでしょうか。誰が、新しいものを生み出せるのでしょうか。

今日の詩篇には、それは「芽生えている」と書かれています。それは、おそらく、永遠なものから、生まれてくるのでしょう。

実際、私たちに、本当の決断が可能になるのは、実は、**自らの力に、失望し**きたときであり、**新しいものは、そこから生まれてくるように見えます。**そこに、**新たな芽生えがあるように思えます。**

詩篇において、神様が「思い出さない」と言われているのは、過去を忘れていいということではありません。

神様は、過去の失敗、過ちや罪が、自動的になくなると言っておられるのではありません。

私たちは、過去にとらわれて、**意欲を失い、喜びを失い、感動をうしなえば、前に進むことができません。**

そうなっている自分に気づいたたら、そういうあなたは「死んでいるも同然」であることに気づいてください。

過去にとらわれ、未来への勇気を失うことは、キリスト教的でないのです。過去の失敗、過ちや罪が消えるわけではありません。しかし、それらから解放され、ほかの人を赦すこと、そして、新しく生きる希望が生まれることが、もっと重要なのだと思います(マタイ18:22)。

私たちは、依然として「パンデミック」の只中にあります。中国も、欧米諸国も、経済活動水準は、「パンデミック」以前の経済水準に回復しつつあります。日本も年内には、これを達成しようとしています。

しかし、インドや中南米諸国、アフリカ諸国だけでなく、近隣の東南アジア諸国は、非常に危険な状態にあります。

楽観的なことだけ語り、自分の都合のよい未来しか考えないことは、経済学の使命とは異なります。

それは、**世界経済のメカニズムを明かにすることなく、人類の生存基盤も、動植物も、地球環境も破壊し尽くしてしまう可能性があります。**

計算できること、有用なこと、あるいは、目に見えるものだけが重要なではありません。それでは、サイエンスの進歩はとまり、真理を明かにすることは、とまってしまいます。

生きることだけでも忙しい現代人は、難しい聖書から学ぶことが困難になっています。あなたは、自分のみたくいものを見るのではなく、「パンデミック」後の人類の向かうべき世界について、聖書を開き、どうか多くを学んでください。